

令和 7 年 6 月 16 日

報道機関 各位

未来を創る技術・情報教育シンポジウム 2025 in Nagasaki

令和 7 年 6 月 21 日（土）、「技術の本質的理解に導く『社会に開かれた教育課程』の授業デザインの開発」研究チーム（研究代表者：長崎大学 未来教育創造センター こぼえきとし 小八重智史 准教授）が、標記シンポジウムを開催します。

生成 AI は今や驚異的なスピードで進化・普及し、私たちの暮らしや社会に大きな変化をもたらしています。もはや専門家でなくても、自分のアイデアを形にするアプリを AI で開発したり、3D プリンタでオリジナルの製品を作ったりできる時代です。こうした中で、**AI をはじめとするテクノロジーを自在に使いこなし、豊かな未来を切り拓く次世代を育むには、教育の在り方にも大きな変革が必要です。そのためには、学校など教育機関だけでなく、社会全体で手を携えて取り組むことが求められます。**現在、中央教育審議会では技術・情報教育の抜本的改革が活発に議論されており、今後の方向性が注目されています。

本シンポジウムは、地域や産業界、学术界など社会全体で次世代の技術・情報教育を創ること目指して開催します。当日は、学習の当事者である生徒・学生や技術・情報関連企業の方など、幅広い所属・年代の参加者が集い、考えを交わします。

多くの方にこの取り組みを知っていただけるよう、報道を通じて広く発信していただきたけますと幸いです。取材へお越しいただける場合は、下記問い合わせ先までご連絡をお願いします。

シンポジウム概要

1. 日時：令和 7 年 6 月 21 日（土）13 時 30 分～16 時 45 分
2. 場所：長崎大学教育学部 教育工学実験棟 2 階
3. 参加者：教育関係者（教員、行政等）、一般（企業・団体等、保護者）、生徒・学生（中・高・高専・大学等）
4. 内容：①ワークショップ、②パネルディスカッション、③ラウンドテーブル

プログラムの詳細

①ワークショップ

中学校技術・家庭科技術分野の授業「計測・制御のプログラミングによる問題解決」の学習を、実際に導入例が多くある教材を用いて参加者全員で体験します。

②パネルディスカッション

技術・情報教育に多方面からアプローチされている第一人者を招き、パネルディスカッションを行います。



<コーディネーター>

小八重 智史（長崎大学未来教育創造センター）

<パネリスト>

久我 哲也（株式会社村田製作所企画管理本部管理グループ広報部ブランド・コミュニケーション課）

高松 基広（株式会社ティーファブワークス代表取締役、株式会社 Syun 代表取締役）

田中 章愛（株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント toio 事業推進室シニアマネジャー）

谷本 優太（長崎大学教育学部附属中学校 教諭）

山道 一平（長崎県立諫早高等学校 教諭）

渡邊 茂一（国立教育政策研究所 教育センター研究開発部 教育課程調査官、
文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官、情報教育振興室 教科調査官）

③ラウンドテーブル

パネルディスカッションで展開された議論を基に、幅広い背景を持つメンバーで構成した小グループで、テーマについて語り合います。

【参考】

長崎大学 未来教育創造センターとは

デジタル技術を活用した個別最適な学びを実現する教授法の確立や、教員養成機能の全学的支援を行う令和7年4月に設置された教育・学生支援組織です。



【本リリースに関する問い合わせ先】

小八重 智史 准教授

長崎大学未来教育創造センター TEL : 095-800-4137 MAIL : kobae@nagasaki-u.ac.jp

後援 長崎大学教育学部、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、諫早市教育委員会、大村市教育委員会
諫津町教育委員会、長与町教育委員会、長崎県中学校技術・家庭科教育研究会

本シンポジウムでは Society5.0 実現に向け、生成AI
時代を支える情報技術を基盤とした技術・情報教育の
あり方を、企業、大学、教育行政など多様な立場から
考えます！みなさんも参加しませんか？
中高生、保護者も大歓迎です！

未来の技術・情報教育 を考えてみませんか

13:30～ 開会

13:40～ ワークショップ

「中学校プログラミング教育を体験しよう」

14:35～ パネルディスカッション

「技術・情報教育を通した Society5.0 の共創」

15:55～ ラウンドテーブル「技術・情報教育を通した
Society5.0 の共創」

16:20～16:45 閉会行事

プログラム

<コーディネーター>

小八重 智史(長崎大学未来教育創造センター)

<パネリスト>

久我 哲也 氏(株式会社村田製作所)

高松 基広 氏(株式会社ティファワークス)

田中 章愛 氏(株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント)

谷本 優太 氏(長崎大学教育学部附属中学校)

山道 一平 氏(長崎県立諫早高等学校)

渡邊 茂一 氏(国立教育政策研究所)

2025
6/21
Sat

未来を創る in Nagasaki 技術・情報教育シンポジウム

時間：13:30～16:45

会場：長崎大学教育学部

長崎県長崎市文教町1-14

詳細、申込は
QRコードから



主催：『技術の本質的理解に導く「社会に開かれた教育課程」の授業デザインの開発』研究チーム

< シンポジウムの推し ① >

パネリストによるパネルディスカッション、共に語るラウンドテーブル

技術・情報教育にアプローチされている様々な「プロ」にお越しいただき、共に考えます。



久我 哲也 / Tetsuya KUGA

株式会社村田製作所企画管理本部管理グループ広報部ブランド・コミュニケーション課

1985年に立命館大学理工学部を卒業後、村田製作所に入社。生産技術部で生産設備合理化の設計・製作担当や標準機担当、設備・プロセス開発担当を経て、2005年から技術管理部にて開発部門のテーマ管理や新規技術導入支援を担当。2012年から故障解析センタにおいて品質管理システム企画や解析体制の企画に従事。2018年から広報部に所属し、ムラタセイサク君やムラタセイコちゃん、村田製作所チアリーディング部などロボットを活用した企業PRや社会貢献活動の一部としての国内外におけるSTEAM教育を企画運営している。



高松 基広 / Motohiro TAKAMATSU

株式会社ティーファブワークス代表取締役、株式会社 Syun 代表取締役

企業向けのシステム開発に30年以上携わるプログラマー。50歳を過ぎて子どもたちとプログラミングで遊ぶ楽しさを知り、ボランティアサークル CoderDojo づくば、守谷を主宰。2017年に micro:bit の世界コンテストで入賞し、2018年イギリス Bett Show に招待される。日本の教育現場で micro:bit を普及させることを決意し、教科書編集協力や教員研修、micro:bit 関連教材の開発に携わる。2021年からは日本の教育現場の事情に則した AkaDako の開発に着手。現在、AkaDako を題材に年間100件以上教員研修を実施している。天板拡張くんの発明者でもある。



田中 章愛 / Akichika TANAKA

株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント toio 事業推進室シニアマネジャー

小2でロボットを作り始め、2002年に佐世保高専卒業。筑波大学大学院修了後、ソニー株式会社に入社。ロボットの研究開発を経て、2013年にスタンフォード大学訪問研究員。その後、ソニーのスタートアップの創出や事業運営を支援するプログラムの企画・運営に携わる。2016年にスタートアップとして社内有志でロボット「toio」プロジェクトを提案。以降、商品化及び事業化に従事。開発した「toio」は、第10回ロボット大賞文部科学大臣賞を受賞。2022年NHK「魔改造の夜」にてチーム「S ニー」の総合リーダーを務め、世界新記録を達成。



谷本 優太 / Yuta TANIMOTO

長崎大学教育学部附属中学校 教諭

長崎大学教育学部を卒業後、長崎県公立学校教諭として3年間の勤務を経て2021年から現職。中学校技術・家庭科（技術分野）の授業を担当し、2025年4月から勤務校において研究主任を務めている。研究分野は技術科教育であり、これまでに社会に開かれた教育課程の実現、郷土長崎を活かした題材の開発、AIの仕組みを学習する教材及び題材開発に取り組んできている。現在は、主に家庭分野と連携したカリキュラムマネジメント、メタ認知に関わる研究に注力している。



山道 一平 / Ippei Yamamichi

長崎県立諫早高等学校 教諭

長崎大学教育学部を卒業後、2004年に上五島町立上五島中学校に技術科の教員として着任。その後、県内の公立中学校で勤務。長与町立長与中学校では、研究主任としてタブレット端末の活用について校内研究を牽引した。2024年4月に長崎県立諫早高等学校に情報科（高校）教員として着任。現在2年目を迎えている。



渡邊 茂一 / Shigekazu WATANABE

国立教育政策研究所 教育センター研究開発部 教育課程調査官
文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官、情報教育振興室 教科調査官

2001年4月、相模原市立中学校技術科教員として着任。2014年4月から相模原市立総合学習センター（現 相模原市教育センター）の指導主事として、中学校技術・家庭科の教育課程や小中学校の情報教育、プログラミング教育の推進に努める。2022年4月より現職において、中学校技術教育、小中学校情報教育の教育課程の調査・研究・周知を行っている。

< シンポジウムの推し ② >

実際の教材を用いた、「プログラミングの技術による問題の解決」学習を体験するワークショップ AkaDako シリーズを用いて、中学生の気持ちで学習を楽しんでみませんか？



(引用) <https://akadako.com> AkaDako とは